

資料

環境学習施設で行ったパソコンを利用した身近な環境問題に関する環境チェック

本多久男、大塚定男、安部明美
(企画調整部、大気環境部、水質環境部)

Inquiries about Circumstances Utilizing Personal Computers in Environmental Learning Facility

Hisao HONDA, Sadao OTSUKA, Akemi ABE
(Planning and Coordination Division, Air Quality Division, Water Quality Division,)

1. はじめに

1992年はアースイヤーということもあり、新聞、テレビ等のマスコミは地球規模での環境問題について詳細に報道した。それとともに、一般市民みずからが身近な環境についての行動を見直さなければならないことを取りあげ、地球を救う方法等環境の改善方法を提案している。このことは、過去の公害問題と大きな違いであり、生活排水問題、自動車公害問題、一般廃棄物問題は一般市民をも巻き込んだ環境問題として、市民レベルでの取り組みが問題の解決の糸口であるととらえている。

環境科学センターでは1991年に環境学習施設を設置し¹⁾、広く県民を対象とした環境学習を行っており、前号ではパソコンを利用した環境問題の認識度について報告した。²⁾この施設の利用者を対象にパソコンを利用したアンケート形式の環境チェックを新たに考案し、環境問題の意識とその行動を調査し、得られたデータを基に環境問題に対する解析を行った。従来、環境問題の意識調査は、郵送や面接により行われるが、今回、このように環境学習拠点において継続的に行われた調査事例は少なく、今後環境学習を進めるうえで新たな知見が得られたので報告する。

本資料では、パソコンを利用した環境チェック

の調査方法とアンケート調査結果について記述する。

2. 調査の方法

2.1 環境チェック

環境科学センターでは環境学習施設の展示コーナーに子供から大人まで楽しみながら環境問題を学習できるスペースを設け、その一つのパソコンを利用して問答形式の環境チェックを行った。

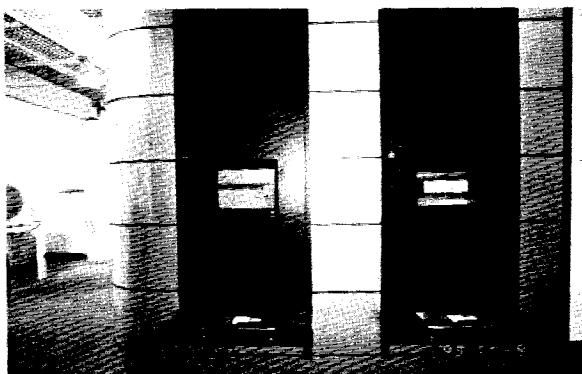


写真1 環境チェック

質問は家庭における身近な環境問題として「音」、「ゴミ」、「水」、「エネルギー」、「買い物」に関するテーマとした5つの課題について取りあげ、それぞれ10問質問している。質問形式はアンケート方式とした。

2.2 調査の期間

調査は、平成4年9月から平成5年3月までの6か月間である。

2.3 パソコンによる調査の方法

利用者はパソコンの前にあるテンキーボードにより回答を行う。アンケートを始める前に回答者のフェイスシートとして性別、年齢、職業、居住地域のコードをテンキーにより入力する。その後、調査項目を選択し、アンケートに答える。各調査項目とも10問質問を作成しており、1項目終了した時点で終了することもできる。なお、各項目終了時に一口メモで環境についてのコメントをつけている。

2.4 集計システム

パソコンとワークステーションはネットワークで結ばれている。クイズ終了後、性別、年齢、職業、居住地域及びアンケート結果がワークステーションに送信され、個人ファイルとして自動的に入力される。これらのデータファイルを別のパソコンにより統計処理を行い、データを基にどの程度環境に対して関心があるか解析した。

3. 調査結果及び考察

3.1 調査対象者

音、ゴミ、水、エネルギー、買い物の各調査項目別の年齢別、職業別、地域別回答者数は表1～表3のとおりである。なお、10歳未満の回答者のデータは信頼性から判断して削除した。各項目別の年齢層は10歳代が50%以上と多く、20～40歳代はほぼ同程度の回答者割合であった。

項目別に回答者数をみるとゴミ、買い物の項目は女性の回答者数が多いのが目立った。また、買い物に対して回答者数が最も多く、関心の高さが

表1 年齢別回答者数

	音	ゴミ	水	エネルギー	買い物
10歳代	238	160	166	113	232
20歳代	44	39	37	37	55
30歳代	48	54	38	28	61
40歳代	34	25	37	11	41
50以上	14	17	26	7	20
合計	378	295	304	196	409

表2 職業別回答者数

職業	音	ゴミ	水	エネルギー	買い物
会社員	87	78	91	53	106
自営業	11	8	10	6	15
学生	172	130	125	97	181
主婦	29	45	25	13	44
その他	79	34	53	27	63
合計	378	295	304	196	409

表3 地域別回答者数

地域	音	ゴミ	水	エネルギー	買い物
川崎	19	19	14	13	18
横浜	14	19	13	29	36
横須賀・三浦	22	13	15	9	28
県央	33	36	24	9	40
湘南	225	171	185	113	227
津久井		1	2	1	2
足柄上	10	6	7	2	8
西湘	13	8	14	4	20
神奈川以外	42	22	30	16	30
合計	378	295	304	196	409

うかがえる。

3.2 調査結果

3.2.1 音の調査結果

音に関する質問項目は身近な騒音を取り上げ、家庭における騒音をテーマに10問作成した。住んでいる住宅の構造、何階建てか、家の中で聞こえる音、外から聞こえる音について調査を行った。調査結果は表4に示すとおりである。

住宅について「あなたの住まいの作りは何ですか」との質問では「木造」住宅が49%と多く、「鉄筋コンクリート」34%となっている。「あなたのお住まいは何階建てですか」との質問では「平屋建て」、「2階建て」で69%を占めている。居住環境の快適性については「あなたの住まいの住みやすさはいかがですか」との質問では「とても住みやすい」+「住みやすい」で60%となっており、「住みにくい」+「とても住みにくい」が16%と、現在の住まいに対する快適度は比較的高いと考えられる。

身の回りのうるささについての感じ方で、「外から聞こえてくる音について、どう思いますか」との質問では「とてもうるさい」+「うるさい」が

表4 「音」に関する調査結果

Q 1 あなたのお住まいの造りは何ですか		
1. 木造	168	(49%)
2. 鉄筋コンクリート	117	(34%)
3. 鉄筋プレハブ	21	(6%)
4. その他	40	(11%)
Q 2 あなたのお住まいは何階建てですか		
1. 平屋建て	73	(21%)
2. 2階建て	166	(48%)
3. 3階建て	21	(6%)
4. 4階以上	84	(24%)
Q 3 あなたのお住まいの住みやすさはいかがですか		
1. とても住みやすい	83	(24%)
2. 住みやすい	124	(36%)
3. どちらともいえない	78	(23%)
4. 住みにくい	26	(7%)
5. とても住みにくい	29	(9%)
Q 4 あなたのお住まいの周辺の建物密集度はいかがですか		
1. 密集している	64	(19%)
2. やや密集している	103	(31%)
3. どちらともいえない	107	(32%)
4. ややまばらである	39	(12%)
5. まばらである	25	(7%)
Q 5 家の外から聞こえてくる音の中で、一番うるさく感じるのは何の音ですか		
1. 工場の音	20	(6%)
2. 自動車や電車などの音	141	(42%)
3. 工事の音	36	(11%)
4. 子供の声	55	(17%)
5. その他	82	(25%)
Q 6 外から聞こえてくる音について、どう思いますか		
1. とてもうるさい	72	(22%)
2. うるさい	128	(38%)
3. 気にならない	95	(28%)
4. 静か	20	(6%)
5. とても静か	82	(25%)
Q 7 家の中で発生する音の中で、一番うるさく感じるのは何の音ですか		
1. 掃除機の音	143	(43%)
2. 洗たく機の音	38	(12%)
3. 子供の声	59	(18%)
4. 楽器の音	19	(6%)
5. その他	71	(22%)
Q 8 家の中で発生する音について、どう思いますか		
1. とてもうるさい	56	(17%)
2. うるさい	131	(40%)
3. 気にならない	109	(33%)
4. 静か	15	(5%)
5. とても静か	19	(6%)
Q 9 あなたの家では、防音の工夫をしていますか		
1. している	66	(20%)
2. 特にしていない	261	(80%)
Q 10 騒音について、加害者意識よりも被害者意識の方を強く感じますか		
1. はい	109	(33%)
2. いいえ	79	(24%)
3. どちらともいえない	138	(42%)

全体の60%であるのに比して(「静か」+「とても静か」)は11%となっており、うるさいと感じている割合が多い。

「家の外から聞こえてくる音の中で、一番うるさく感じるのは何の音ですか」との質問では、「自動車や電車などの音」が42%と多く、それに対して「工場の音」は6%と少ない。

一方、「家の中で発生する音について、どう思いますか」との質問では、「とてもうるさい」+「うるさい」が全体の57%と(「静か」+「とても静か」)11%を上回っている。

「家の中で発生する音の中で、一番うるさく感じた音」は「掃除機の音」が43%と一番高くなっている。

図1に示す「外から聞こえてくる音の感じ方」を年齢層別に見ると、若年層ほど(「とてもうるさい」+「うるさい」と感じる割合が高く、年齢層が上がるにつれ「静か」の割合が高くなる傾向にある。

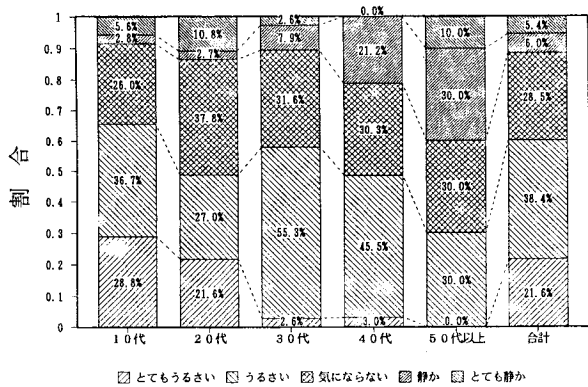


図1 外から聞こえてくる音についてどう思うか

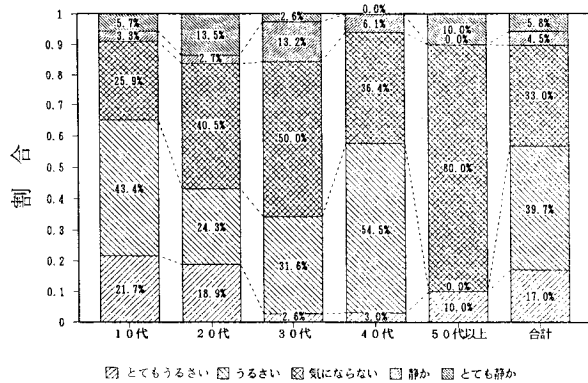


図2 家の中で発生する音についてどう思うか

このことは、図2に示す「家の中で発生する音についての感じ方」でも同様の傾向を示している。

このことは、従来からいわれているように若年層ほど騒音に対して敏感であるという傾向にある。

「あなたの家では、防音の工夫をしていますか」との質問では20%が「している」と回答している。

「騒音について、加害者意識よりも被害者意識の方を強く感じますか」との質問では被害者意識を持っている人は全体の33%で、加害者意識を持っている人は24%となっている。

3.2.2 ゴミの調査結果

ゴミに関する質問項目は家庭から出る一般廃棄物を取りあげ、家庭でできるゴミのリサイクル、省資源について10問作成した。ゴミの出し方、分別収集、廃乾電池の廃棄について調査を行った。

調査結果は表5のとおりである。

「あなたは、ゴミ問題についてどうお考えですか」との質問は「リサイクル活動に協力するなど、積極的にゴミを減らすようにしている」と積極派が69%と多く、「深刻な問題だと思うが特別何もしていない」+「特に気にしていない」の消極派を上回っている。また、「リサイクル活動、資源回収、バザーに協力していますか」との質問も「進んで協力している」積極派が56%と(「協力したいと思うが、まだ協力していない」+「協力するつもりはない」)の消極派を上回っている。

図3に示すように「リサイクルや資源回収等の活動」を年齢層別にみても、20歳代では実践

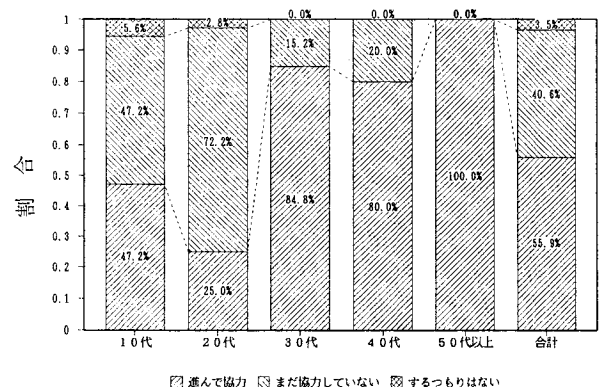


図3 リサイクル活動、資源回収等に協力しているか

活動を行った割合が少なく、無関心派が多い。しかしながら10歳代と30歳代以上に年齢が上がるにつれ、実践派が多くなる傾向を示している。

「ゴミの出し方について「粗大ゴミは、どのような時にしますか」、「あなたの家では、ビン空

表5 「ゴミ」に関する調査結果

Q 1 あなたは、ゴミ問題についてどうお考えですか		
1. リサイクル活動に協力するなど、積極的にゴミを減らすようにしている	181	(69%)
2. 深刻な問題だと思うが特別何もしていない	63	(24%)
3. 特に気にしていない	20	(8%)
Q 2 リサイクル活動、資源回収、バザーに協力していますか		
1. 進んで協力している	143	(56%)
2. 協力したいと思うが、まだ協力していない	104	(41%)
3. 協力するつもりはない	9	(4%)
Q 3 粗大ゴミは、どのような時に出しますか		
1. こわれて使用できなくなったとき	192	(76%)
2. まだ使えるが、型が古くなったとき	28	(7%)
3. 部屋の模様がえなどで不要になったとき	24	(9%)
4. その他	20	(8%)
Q 4 あなたの家では、ビン、空き缶などの燃えないゴミは分別して出していますか		
1. はい	219	(87%)
2. いいえ	24	(10%)
3. 分別して出すようになっていない	8	(3%)
Q 5 電化製品は、どういうものを購入していますか		
1. 少々高値でも、長く使えるよい製品を購入している	192	(77%)
2. 格安で、使い捨てできるものを購入している	17	(7%)
3. 新製品が出ると、買い替えている	6	(2%)
4. 特に考えないで購入している	36	(14%)
Q 6 古着はどうしていますか		
1. 捨てている	49	(20%)
2. リサイクルショップや廃品回収に出している	59	(24%)
3. 知人、親せきに譲っている	114	(45%)
4. 社会事業団体へ寄附している	3	(1%)
5. その他	26	(10%)
Q 7 あなたは、商品の包装についてはどうお考えですか		
1. 不必要だと思う	85	(34%)
2. 贈り物のときだけ包装してもらっている	122	(49%)
3. いつも店員さんに任せている	31	(12%)
4. 過剰な包装をしない小売店で購入する	12	(5%)
Q 8 スーパーで買い物するとき、買い物袋はどうしていますか		
1. 家から、買い物袋をもって出かけている	71	(29%)
2. スーパーで配布しているポリ袋を使用している	116	(47%)
3. どちらの場合もある	58	(24%)
Q 9 リサイクル品やエコマーク商品を使っていますか		
1. 実際に使っている	178	(73%)
2. 使っていない	67	(27%)
Q 10 使ったあとの乾電池はどのように処分していますか		
1. 有害ゴミとして市町村の決められた方法に従っている	188	(77%)
2. 一般ゴミと一緒に捨てている	20	(8%)
3. 燃えないゴミとしてプラスチックやビニールなどと一緒に捨てている	37	(15%)

き缶などの燃えないゴミは分別して出していますか」、「古着はどうしていますか」質問したが、全体的に省資源についての意識は高い。

商品の購入について「電化製品は、どのようなものを購入していますか」、「商品の包装についてはどうお考えですか」、「スーパーで買い物するとき、買い物袋はどうしていますか」、「リサイクル品やエコマーク商品を使っていますか」について質問した。電化製品の購入は「少々高値でも長く使える良い商品を購入する」割合が77%と多い。

商品の包装については34%の人が「不必要」と回答している。また、買い物袋については29%の人が買い物袋を持って出かけている。

「使ったあとの乾電池はどのように処分していますか」との質問は、「有害ゴミとして市町村の決められた方法に従っている」は77%と比較的多いが、「一般ゴミと一緒に捨てている」+「燃えないゴミとしてプラスチックやビニールなどと一緒に捨てている」とした人が23%もいる。

図4で示すように「使った後の乾電池の処理方法」では20歳代の実践派が一番少なくなっている。このことは、全ての質問に共通しており、20歳代の環境問題に対する意識の低さを示している。

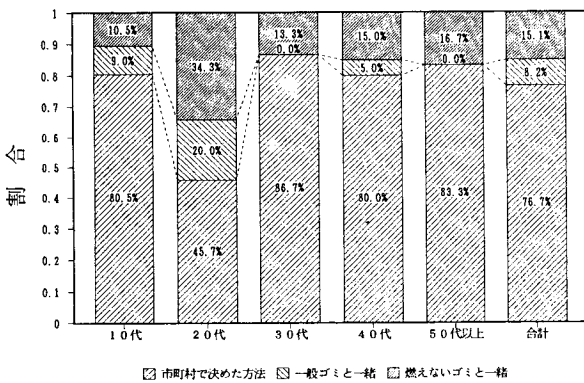


図4 使ったあとの乾電池の処理方法

3.2.3 水の調査結果

水に関する質問項目は台所から出る生活雑排水を取りあげ、10問作成した。自分の家の水についての関心度、台所の排水対策について調査を行った。調査結果は表6のとおりである。

水に関する関心度について「あなたの家の水道の水は、おいしいですか」との質問では「おいしい」23%、「まずい」26%となっている。

「あなたの家の水道水の水源地はどこか御存知ですか」との質問では60%が「知っている」と答えている。「あなたの家の近くを流れる川の水は、きれいですか」との質問では(「やや汚い」+「汚い」)が全体の83%と身近な川が汚いと答えている。

「あなたは、半年の間に近くの河原や海辺で遊びましたか」との質問では61%の人が身近な水辺で遊んでいる。台所の排水対策について「細かい野菜くず、残飯は、どのように処分していますか」との質問では「三角コーナー、排水口のゴミ受けを使用して処分している」が74%「さらにろ紙、ストッキング等をかぶせて処分している」人が18%となっている。図5に示すように「台所の排水対策」について年齢層別にみると、20歳代が実践活動を行った割合が少なく、無関心派が多い。しかしながら年齢が上がるにつれ実践派が多くなる傾向を示している。

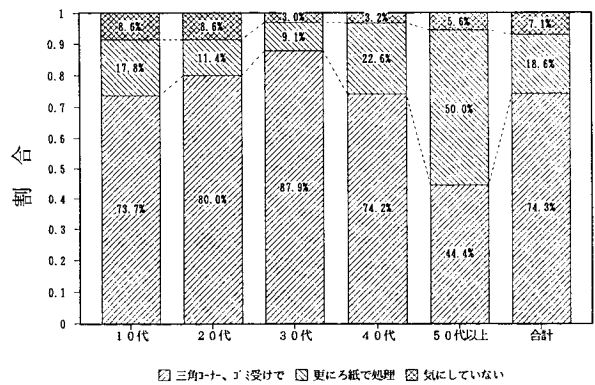


図5 野菜くず、残飯の処分方法

「使い古した食用油(てんぷら油)は、どのように処分していますか」との質問では(「固形剤で固めたり、新聞紙に吸わせて、燃えるゴミとして捨てている」+「せっけんにして再利用している」+「炒め物などに使用して最後まで使いきっている」)が全体の81%となっており、廃油の処分は良く行われている。

「あなたの家では、洗たくにどのタイプの洗剤を使っていますか」との質問では「粉せっけん」が42%となっている。しかしながら、石鹼の使用量統計ではいまだに5%程度と少なく、洗剤と石鹼の区分ができない消費者が多いと考えられる。

「浴槽の水は、どのように利用していますか」との質問では(「洗たくや掃除の水としてつかっている」+「植木にまいている」)が全体の55%であった。

表6 「水」に関する調査結果

Q 1 あなたの家の水道の水は、おいしいですか		
1. おいしい	64	(23%)
2. おいしくもまずくもない	142	(51%)
3. まずい	73	(26%)
Q 2 あなたの家の水道水の水源はどこか御存知ですか		
1. 知っている	171	(62%)
2. 知らない	104	(38%)
Q 3 あなたの家の近くを流れる川の水は、きれいですか		
1. きれい	24	(9%)
2. やや汚い	74	(27%)
3. 汚い	151	(56%)
4. わからない	23	(9%)
Q 4 あなたは、半年の間に近くの河原や海辺で遊びましたか		
1. はい	164	(61%)
2. いいえ	107	(39%)
Q 5 細かい野菜くず、残飯は、どのように処分していますか		
1. 三角コーナー、排水口のゴミ受けを使用している	200	(74%)
2. 1. にさらにろ紙、ストッキング等をかぶせている	50	(18%)
3. 気にしないで、流しに流している	19	(7%)
Q 6 使い古した食用油(てんぷら油)は、どのように処分していますか		
1. 固形剤で固めたり、新聞紙に吸わせて、捨てている	131	(49%)
2. せっけんにして再利用している	16	(6%)
3. 流しに流している	12	(5%)
4. 炒め物などに使用して最後まで使いきっている	69	(26%)
5. その他	38	(14%)
Q 7 あなたの家では、洗たくにどのタイプの洗剤を使っていますか		
1. 合成洗剤	144	(54%)
2. 粉せっけん	110	(42%)
3. その他	11	(4%)
Q 8 浴槽の水は、どのように利用していますか		
1. 洗たくや掃除の水としてつかっている	131	(50%)
2. 植木にまいている	12	(5%)
3. そのまま流している	120	(46%)
4. その他		
Q 9 あなたは、洗たくするとき、洗剤をどのようにして入れていますか		
1. 大体の目分量で入れている	92	(35%)
2. 水の量に応じて、正確に計って入れている	137	(52%)
3. 特に気にしない	34	(13%)
Q 10 油でよごれた食器はどのようにして洗っていますか		
1. 油を水(お湯)で流してから洗っている	125	(48%)
2. 布や紙でふき取ってから洗っている	57	(22%)
3. そのままその他の食器と同様に洗っている	81	(31%)

洗濯の仕方では「あなたは、洗たくするとき、洗剤をどのようにして入れてますか」との質問では「水の量に応じて、正確に計って入れている」が52%となっている。図6では洗濯時の洗剤の量の計り方をみるとここでも20歳代の実践派が一番少なくなっている。このことは、全ての質問で同様の傾向を示している。

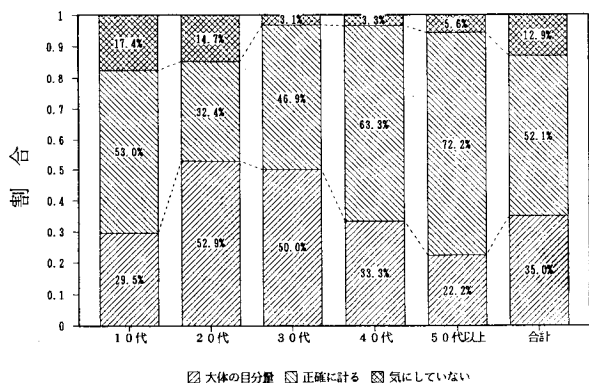


図6 洗たく時の洗剤の分量

また、「油でよごれた食器はどのようにして洗っていますか」との質問では「布や紙でふき取ってから洗っている」は22%と比較的少なくなっている。このことは、食器洗いは他の対策に比較して面倒な割にその効果が不明確であることも原因と考えられる。

3.2.4 エネルギーの調査結果

エネルギーに関する質問項目は家庭のエネルギーを取りあげ、10問作成した。自分の家で使用する電気、ガス、水、自動車等についての意識について調査を行った。調査結果は表7のとおりである。

風呂の燃料はガスが一般的であるが時間を置くと追い炊きが必要となり、エネルギーの無駄となる。そこで「お風呂は、家族全員がいつも同じ時間帯に入るようにしていますか」との質問では「はい」は38%と省エネ派は少ない。

「あなたの家では、どのような洗濯の仕方をしていますか」との質問では「一定量をためて、一度にまとめて洗濯している」省エネ派は42%と少ない。図7に示すように「洗濯の仕方」では30歳代が一度洗いの割合が高く、20歳代以下、50歳代はその割合が低くなっている。

「冷蔵庫の中にはどのくらい物が入っています

か」との質問では省エネ効果が一番高い「1/3程度物が入っている」は20%と少なく、「1/2以上物が入っている」が64%とどの家庭も冷蔵庫の中は物が詰まっているようだ。

「歯みがきをするとき、水道の水はどうしていますか」との質問では、「とめている」は83%と省エネが徹底している。

「通勤通学には、主に何を利用してありますか」「自動車、バイク」が16%で「電車、バス」、「自転車」、「徒歩」、は84%となっている。

「夏、エアコンを使用するとき、温度は何度に設定していますか」との質問では「27~28度」の省エネ派は12%、「エアコンはなるべく使用しないようにしている」+「エアコンを使用していない」は39%と多い一方、「20~26度」は48%と部屋の冷やし過ぎも多い。図8に示すように「クーラーの温度設定」について年齢別にみると、20歳代

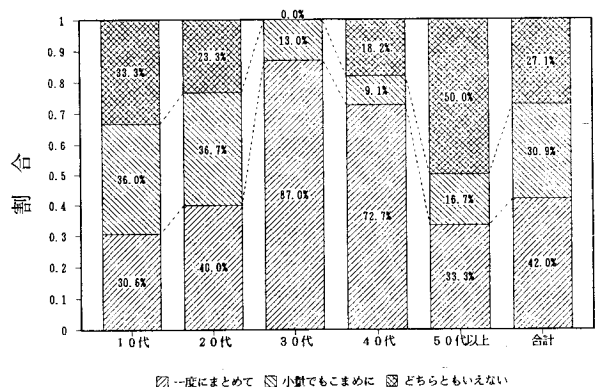


図7 洗濯の仕方

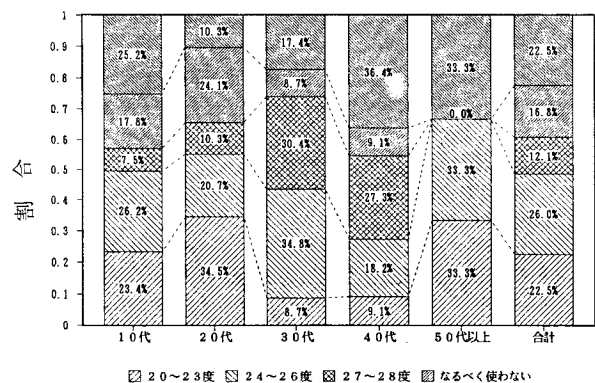


図8 冷房の使い方

と50歳代が設定温度が低い。

「家にいるとき、たいいていテレビをつけていますか」との質問では、「はい」54%と大型化したテレビをBGMとしている家庭が多く、エネルギー

表7 「エネルギー」に関する調査結果

Q 1 おふろは、家族全員がいつも同じ時間帯に入るようにしていますか		
1. はい	70	(38%)
2. いいえ	115	(62%)
Q 2 あなたの家では、どのような洗たくの仕方をしていますか		
1. 一定量をためて、一度にまとめて洗たくしている	76	(42%)
2. 少量でも、こまめに洗たくしている	56	(31%)
3. どちらとも言えない	49	(27%)
Q 3 冷蔵庫の中にはどのくらい物が入っていますか		
1. 1/3程度物が入っている	35	(20%)
2. 1/2程度物が入っている	65	(37%)
3. いっぱい物が詰まっている	47	(27%)
4. その他	27	(15%)
Q 4 菌みがきをするとき、水道の水はどうしていますか		
1. 流しっぱなしにしている	16	(9%)
2. とめている	143	(83%)
3. 日によって異なる	14	(8%)
Q 5 通勤通学には、主に何を利用していますか		
1. 自動車、バイク	27	(16%)
2. 電車、バス	54	(31%)
3. 自転車	12	(7%)
4. 徒歩	77	(45%)
5. その他	3	(2%)
Q 6 夏、エアコンを使用するとき、温度は何度に設定していますか		
1. 20～23度	39	(22%)
2. 24～26度	45	(26%)
3. 27～28度	21	(12%)
4. エアコンはなるべく使用しない	29	(17%)
5. エアコンを使用していない	39	(22%)
Q 7 家にいるとき、たいていテレビをつけていますか		
1. はい	106	(61%)
2. いいえ	67	(39%)
Q 8 部屋の照明はこまめに消していますか		
1. はい	94	(54%)
2. いいえ	36	(21%)
3. どちらの場合もある	43	(25%)
Q 9 あなたの家を増改築するとき、太陽熱エネルギーを使用したいと思いませんか		
1. はい	121	(70%)
2. いいえ	21	(12%)
3. わからない	30	(17%)
Q 10 あなたは、今後、省エネルギー型ライフスタイルに変えられますか		
1. すでに変えている	43	(25%)
2. 多少不便になっても変えたい	48	(28%)
3. 現在のライフスタイルは変えたくない	21	(12%)
4. わからない	60	(35%)

の無駄が目立つ。

「部屋の照明はこまめに消えていますか」との質問では「はい」が61%と省エネ派が多い。

「あなたの家を増改築するとき、太陽熱エネルギーを使用したいと思いませんか」との質問では「はい」70%と省エネ関心派が多い。

「あなたは、今後、省エネルギー型ライフスタイルに変えられますか」との質問では「すでに変えている」実践派が25%、「多少不便になっても変えたい」関心派が28%、「現在のライフスタイルは変えたくない」無関心派が12%となっている。

3.2.5 買い物の調査結果

買い物に関する質問項目は買い物と環境の関わりあいについて取りあげ、10問作成した。調査結果は表8のとおりである。

「日常の買い物はどこでしていますか」との質問では「スーパーマーケット」が69%と7割の人が利用している。「一般商店」「生協等の共同購入」「デパート」は28%となっている。

「環境にやさしい商品についているエコマークを御存知ですか」との質問では78%が知っている。

「買い物をするとき、環境への影響が気になることがありますか」との質問では「よくある」関心派は79%と多い。

使い捨て商品の使用について2つ質問した。「使い捨て商品に対して、あなたはどう思いますか」との質問では「便利なので気にせず使用している」無関心派は23%、「抵抗はあるが、使用することが多い」関心派は36%、「もったいないので、なるべく使わない」+「環境によくないので、なるべく使わない」の実践派は41%となっている。

「使い捨て容器(トレイ、紙コップ等)に対してあなたはどう思いますか」との質問では「便利なので特に気にならない」無関心派は21%、「便利なので使用するが、回収システムがあれば利用したい」関心派は36%、「再利用できるものを選び、リサイクルしている」+「あまり利用していない」実践派は37%となっている。

図9では「使い捨て容器の使用方法」について年齢層別にみると、10歳代、20歳代は便利なので気にせず使用しているグループが多い。一方、30歳代以上ではリサイクルに回したり、使い捨て商品をあまり使用していない割合が多くなっている。

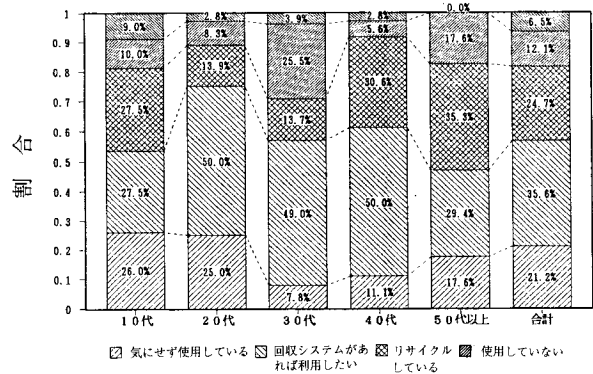


図9 使い捨て容器の使い方

「洗剤を購入するとき、次のどれを重要視しますか」との質問では「環境への影響」20%、「洗浄力」30%、「人体への安全性」23%、「コマーシャル」13%となっている。

化学物質に関する質問を2つした。「食品を購入するとき、必ず確認する項目は何ですか」との質問では「製造年月日」57%、「食品添加物」5%と少なく、「両方確認する」30%となっている。

「あなたは、防虫剤、殺虫剤などの化学薬品の使用についてどう思いますか」との質問では「便利なので特に気にならない」無関心派は14%、「使用しているが、不安を感じる」関心派は42%、「なるべく使用していない」とする実践派が35%を占めている。

図10では「使い捨て商品の使い方」の Kategoriy別に「防虫剤、殺虫剤など化学薬品の使用方法」をクロスチェックした。その結果、使い捨て商品を便利に使用しているグループは殺虫剤等を便利なので「特に気にならない」割合が高い。一方、使い捨て商品を使用していないグループは「殺虫剤等を使用しない」とする割合が多くなっている。

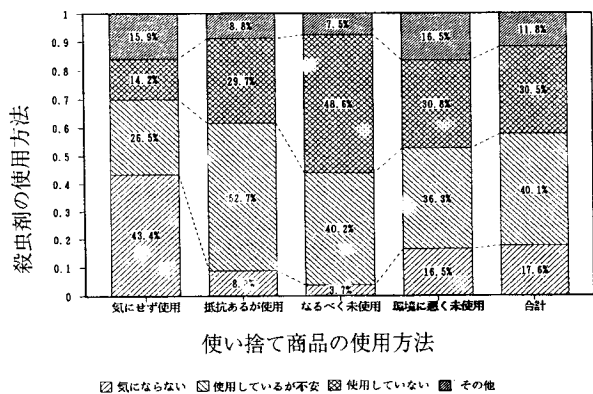


図10 使い捨て商品と殺虫剤の使用状況との関係

表8 「買い物に関する調査結果」

Q 1 日常のお買物はどこでしていますか		
1. スーパーマーケット	247	(69%)
2. 一般商店	32	(9%)
3. 生協等の共同購入	28	(8%)
4. デパート	40	(11%)
5. その他	10	(3%)
Q 2 環境にやさしい商品について「エコマーク」を御存知ですか		
1. はい	278	(78%)
2. いいえ	78	(22%)
Q 3 お買物をするとき、環境への影響が気になりますか		
1. よくある	107	(30%)
2. たまにある	174	(49%)
3. ほとんどない	71	(20%)
Q 4 使い捨て商品に対して、あなたはどのように思いますか		
1. 便利なので気にせず使用している	78	(23%)
2. 抵抗はあるが、使用することが多い	126	(36%)
3. もったいないので、なるべく使わない	87	(25%)
4. 環境によくないので、なるべく使わない	55	(16%)
Q 5 使い捨て容器(トレイ、紙コップ等)に対してあなたはどのように思いますか		
1. 便利なので、特に気にならない	72	(21%)
2. 使用するが、回収システムがあれば利用したい	121	(36%)
3. 再利用できるものを選び、リサイクルしている	84	(25%)
4. あまり利用していない	41	(12%)
5. その他	22	(6%)
Q 6 洗剤を購入するとき、次のどれを重要視しますか		
1. 環境への影響	66	(20%)
2. 洗浄力	102	(30%)
3. 人体への安全性	78	(23%)
4. コマーシャル	43	(13%)
5. その他	50	(15%)
Q 7 食品を購入するとき、必ず確認する項目は何ですか		
1. 製造年月日、賞味期間	191	(57%)
2. 食品添加物	18	(5%)
3. 両方確認する	102	(30%)
4. 気にしない	24	(7%)
Q 8 あなたは、防虫剤、殺虫剤などの化学薬品の使用についてどう思いますか		
1. 便利なので特に気にならない	47	(14%)
2. 使用しているが、不安を感じる	139	(42%)
3. なるべく使用していない	116	(35%)
4. その他	32	(10%)
Q 9 環境にはよいが、割高な商品と、一般の商品とが並んでいたらどちらを選びになりますか		
1. 一般の商品	147	(45%)
2. 5%ほど割高でも環境によい商品	62	(19%)
3. 10%ほど割高でも環境によい商品	56	(17%)
4. 20%ほど割高でも環境によい商品	17	(5%)
5. 20%以上割高でも環境によい商品	47	(14%)
Q 10 環境にいいかどうかの情報について、あなたはどのように思いますか		
1. 現状のままでよい	59	(18%)
2. 情報量が少ない	120	(37%)
3. わかりにくい	76	(23%)
4. かたよりがある	47	(14%)
5. 関心がない	24	(7%)

「環境にはよいが、割高な商品と、一般の商品とが並んでいたらどちらを選びになりますか」との質問では「一般の商品」が45%であり、「5%~20%ほど割高でも環境によい商品」41%、「20%以上割高でも環境によい商品」14%で過半数の人は多少高くても環境に良い商品を買いたいと答えている。

「環境によいかどうかの情報について、あなたはどのように思いますか」との質問では「現状のままでよい」18%、「情報量が少ない」37%、「わかりにくい」14%、「かたよりのある」14%、「関心がない」7%であり、多くの消費者は環境に関する情報に何らかの問題意識を持っている。

4. まとめ

環境科学センターでは1991年に環境学習施設を設置し環境学習を行っており、その意識啓発の一部としてパソコンによる環境チェックを行った。この結果次のことが考察された。

- (1) 「音」に関する調査では、外から聞こえてくる音も家の中の音もうるさいと感じている割合が高く、30歳以下の若年層ほど敏感である。
- (2) 「ゴミ」に関する調査では、質問項目にあげたリサイクル、省資源など積極的に行われており、

意識も高い。

- (3) 「水」に関する調査では、台所の排水対策については比較的良く行われている。しかしながら、年齢層別にみると20歳代の実践派が一番少なくなっている。
- (4) エネルギーに関しては水、ゴミの項目と比較して実践派が少なく、テレビ、冷蔵庫等、エネルギー消費型の商品が無頓着に使っている家庭が多い。
- (5) 買い物に関する調査ではゴミの増加、健康など直接影響があるため消費者の意識が高く、環境に良い商品を判断する情報を求めていることがうかがえる。
- (6) パソコンによるアンケート形式の環境チェックを行ったが、県民の環境に対する考え方が、年間を通じて把握できること、郵送など手間がかからない等利点があり、効果的な方法であることが解った。

参 考 文 献

- 1) 本多久男他：全国公害研究会誌：VOL18、1、50~57
- 2) 本多久男：神奈川県環境科学センター研究報告：第15号、33~41